

# 平成 27 年度北上市男女共同 参画社会に関するアンケート 報告書

調査期間 : 2015. 5. 22~6. 12

## 《目次》

アンケート調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

### アンケート調査の結果

1 回答者自身について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2 家庭生活について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

3 職業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

4 仕事と家庭、地域・個人の生活の両立について・・・・・・ 24

5 男女間の暴力について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

6 男女平等について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

7 男女共同参画社会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

### 自由意見

### 調査票

## 平成27年度男女共同参画に関するアンケート調査の概要

### 1 調査の目的

きたかみ男女共同参画プランの策定から5年目を迎え、市民の男女平等や男女の役割分担等に関する意識の変化と生活実態等を把握し、きたかみ男女共同参画プラン（第2次）の内容を見直すための参考資料とするものです。

### 2 調査主体

北上市

### 3 調査の設計

- (1) 調査対象：市内に居住する18歳以上70歳未満の男女（要介護者を除く）
- (2) 標本数：1,110人（男性670人 女性440人）
- (3) 抽出方法：性別、年代別に無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送による配布、回収（無記名）
- (5) 調査期間：平成27年5月22日～6月12日
- (6) 回収結果：423人（回収率38.1%）  
男性 232人（回収率34.6%） 女性 191人（回収率43.4%）

### 4 調査内容

- (1) 回答者自身について
  - (2) 家庭生活について
  - (3) 職業について
  - (4) 仕事と家庭、地域・個人の生活の両立について
  - (5) 女性に対する暴力について
  - (6) 男女平等について
  - (7) 男女共同参画社会について
- 自由意見

### 5 報告書を見るうえでの留意事項

- (1) 調査結果の数値は集計対象数（Nと表示）に対する百分比（%）であり、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位を表示。したがって、その合計は100%にならないときがある。
- (2) 複数回できる質問の場合、示す比率は回答数の集計対象者数に対する百分率であり、その合計は100%を超えている。
- (3) 回答者が限定された質問においては、その対象者数をNと表示している。

## アンケート調査の結果

### 1. 回答者について

#### (1) 性別、(2) 年齢別 構成比

- 標本数 1,110 人に対し、回収数は 423 人で、回収率は約 38.1%。前回調査(平成 22 年)より 1.7 ポイント増である。
- 回答者の男女比は男性 55% に対して、女性 45% で、男性が上回った。

#### (3) 職業について

- 6 割以上 (63.5%) の人が正規またはパート、アルバイトなどで雇用されている。
- 男性は正規雇用が多く、女性は非正規雇用が多くなっている。

#### (4) 配偶関係

- 既婚者は 30 代を境に急激に増える。
- また、男女の違いとして、男性は女性より未婚者の割合が高く、女性は 60 代で配偶者と離別・死別している割合が多くなっている。

#### (5) 共働きについて

- 全ての世代で「夫婦共の就業」が 1 番多く割合を占めている。  
(20 代 46.7%、30 代 71.0%、40 代 74.2%、50 代 54.0%、60 代 27.9%)

#### (6) 子どもについて

- 一番多いのは 2 人で約半数 (51.1%) を占める。次いで 3 人 (27.7%) ・ 1 人 (18.4%) 。

#### (7) 世帯構成について

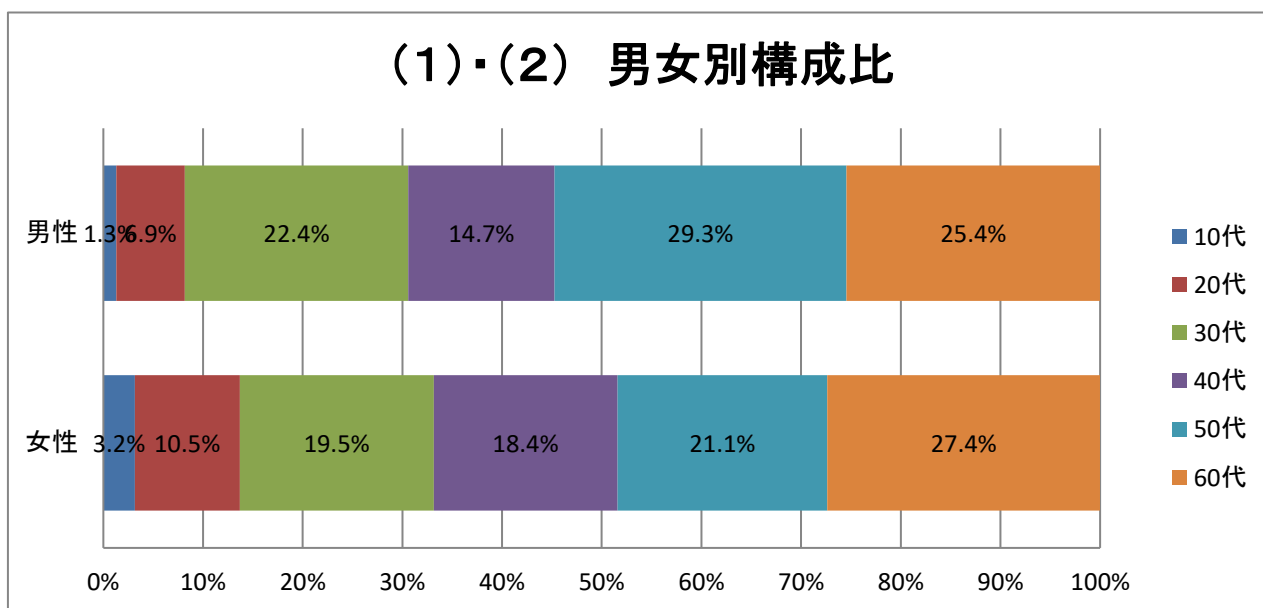
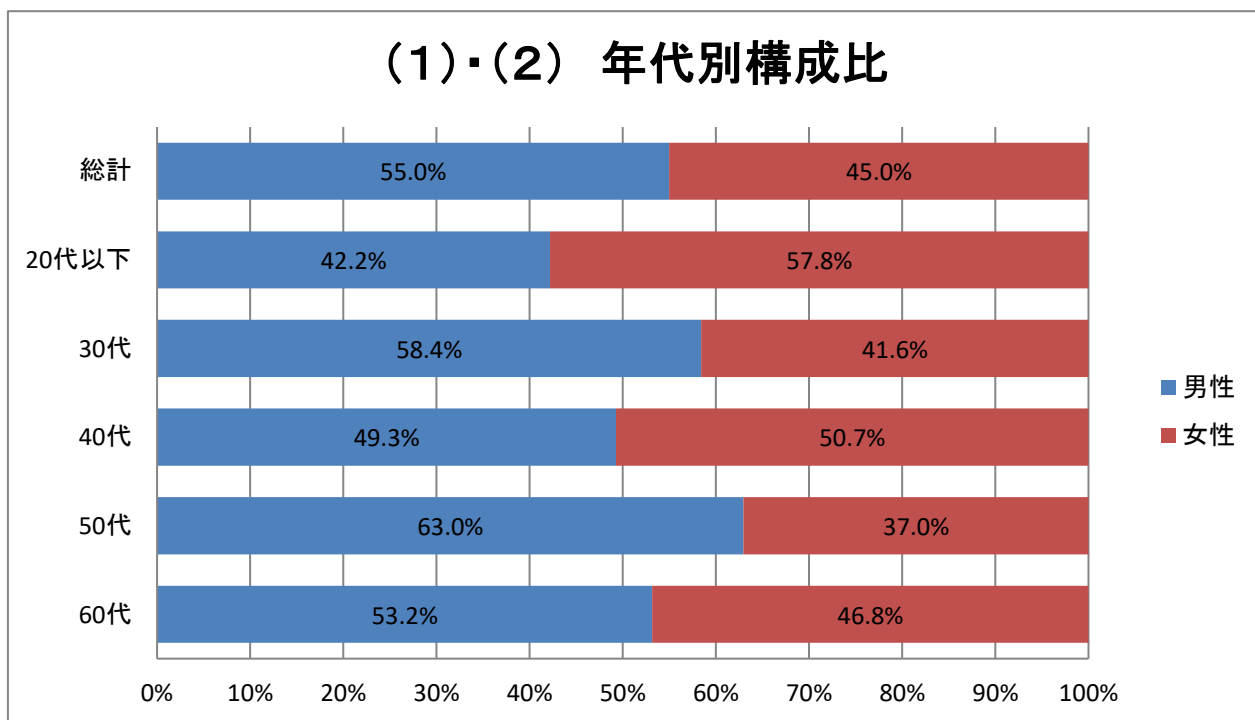
- 全体的には、2 世帯 (50.6%) が一番多く、その後 1 世帯 (夫婦のみ) (21.7%)、3 世代の世帯 (14.9%) が続く。
- 年代別にみると、60 代の約 4 割 (44.6%) が夫婦のみ、または 1 人暮らしの世帯となっている。

#### (8) 要介護者について

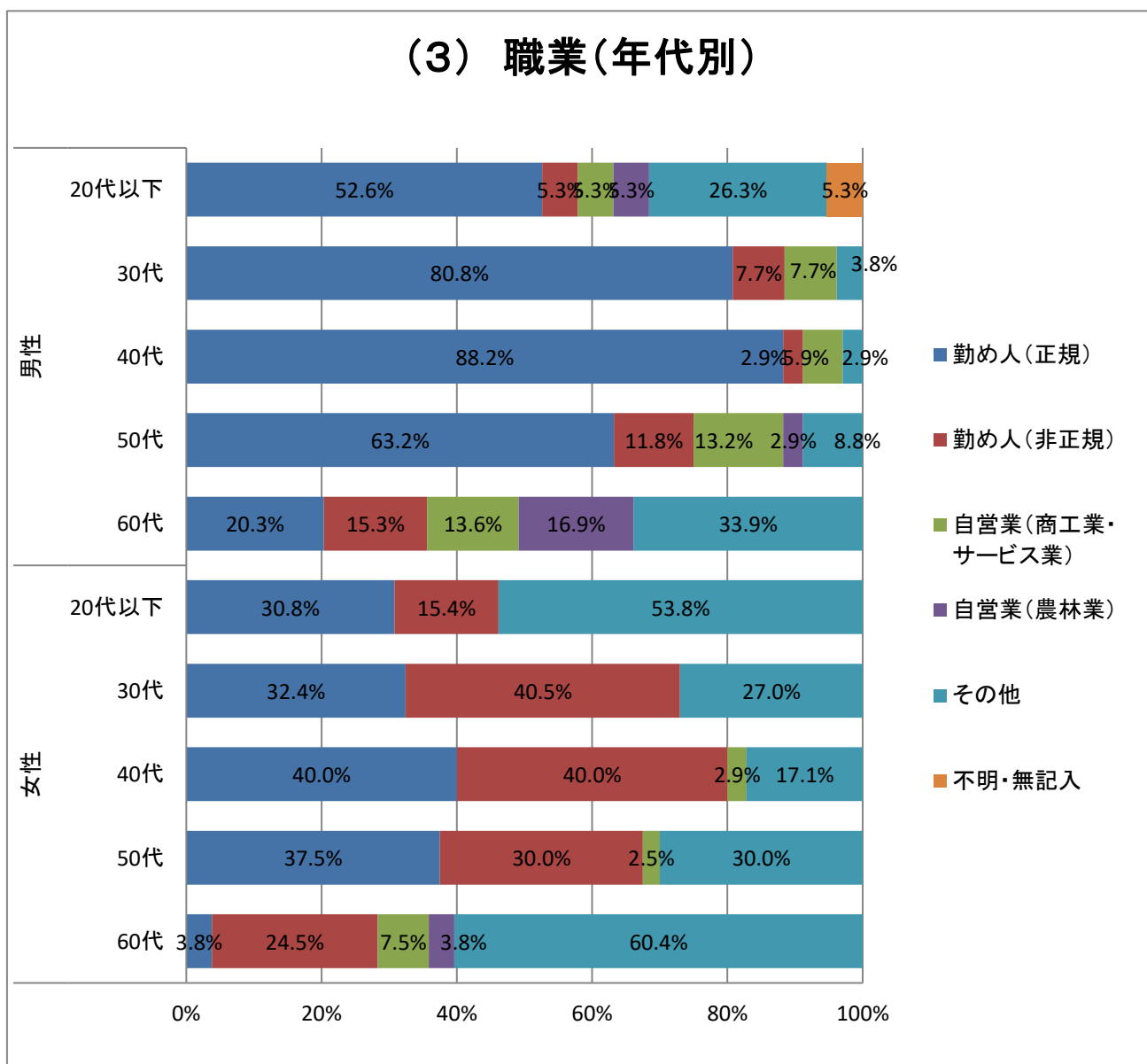
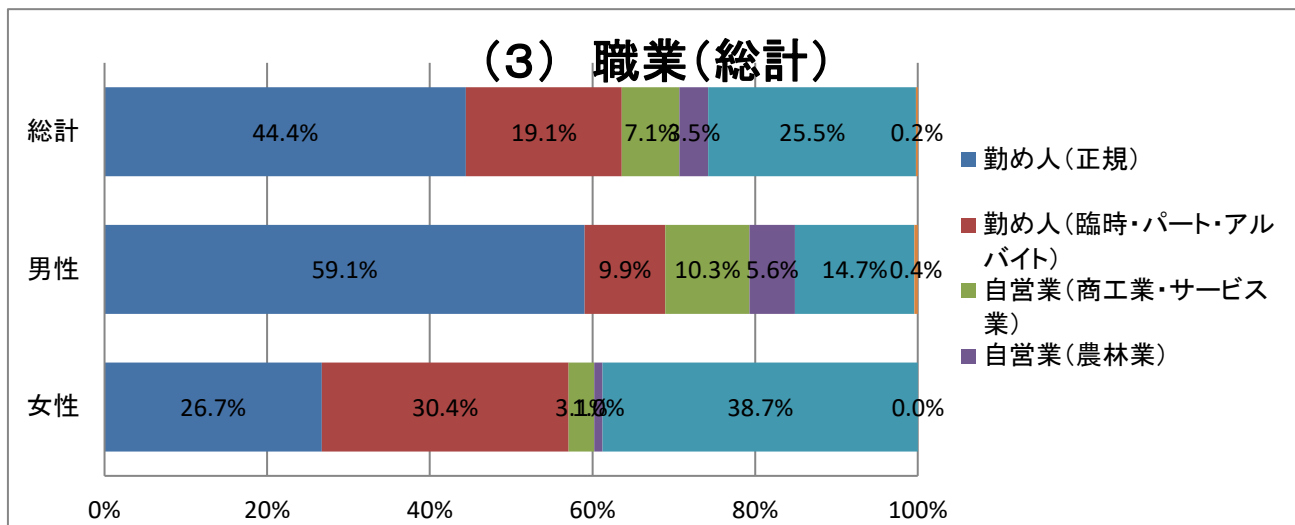
- 全体的に少ないが、世代が上がるにつれ世帯に要介護者がいる割合は増えている。

# 1. 回答者について

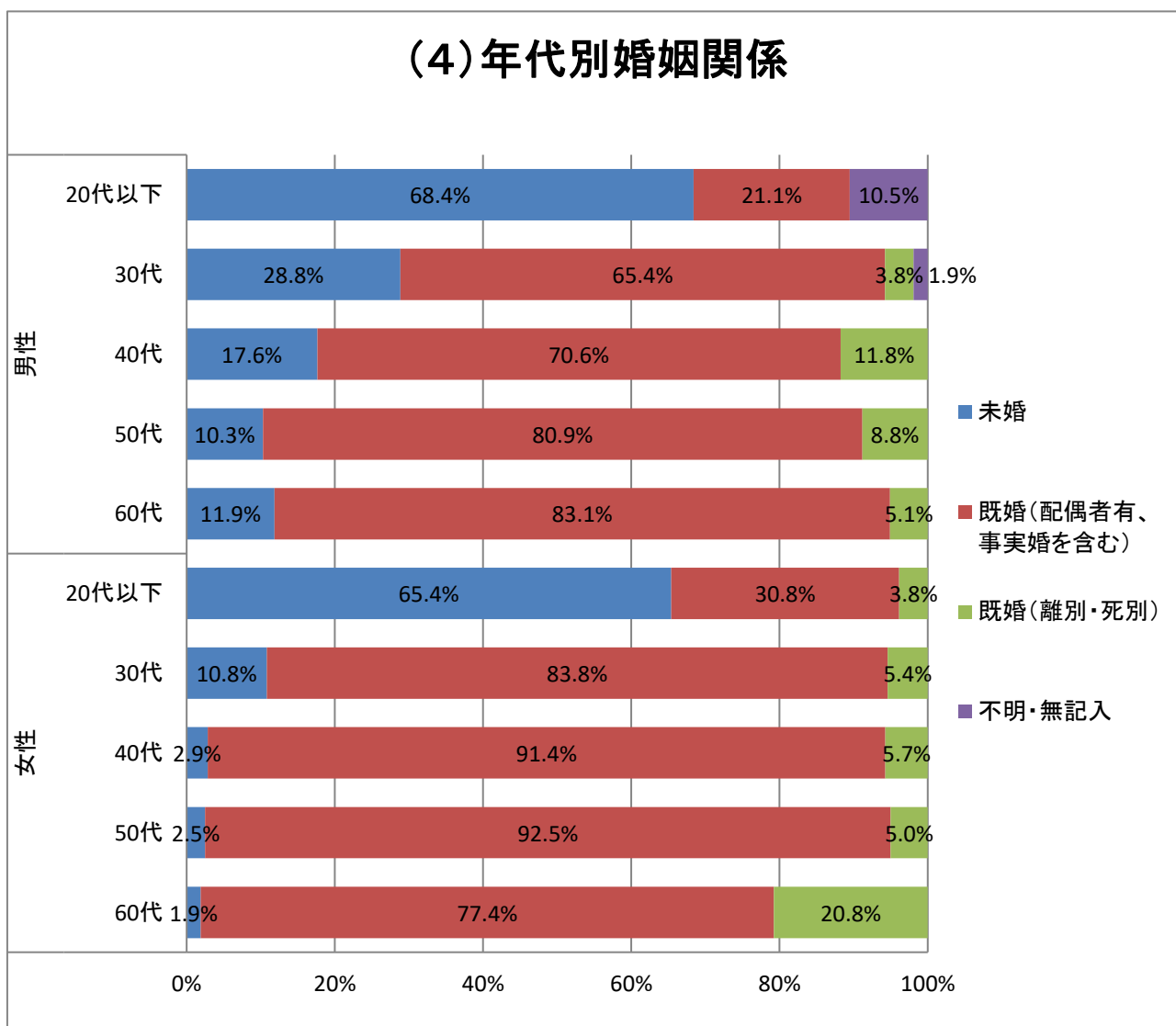
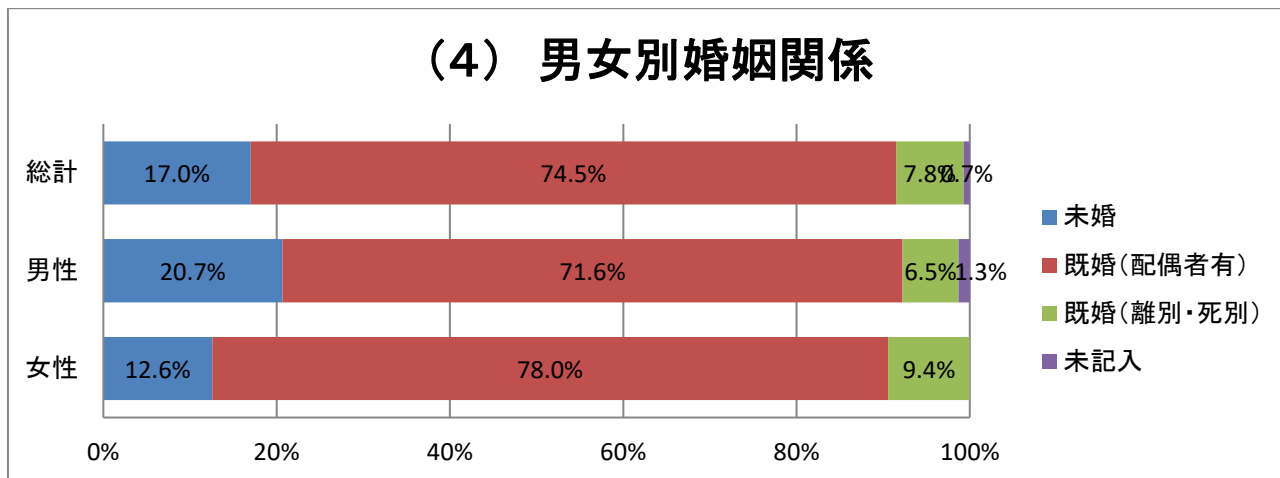
(1) (2) 性別年代構成比 (N=423)



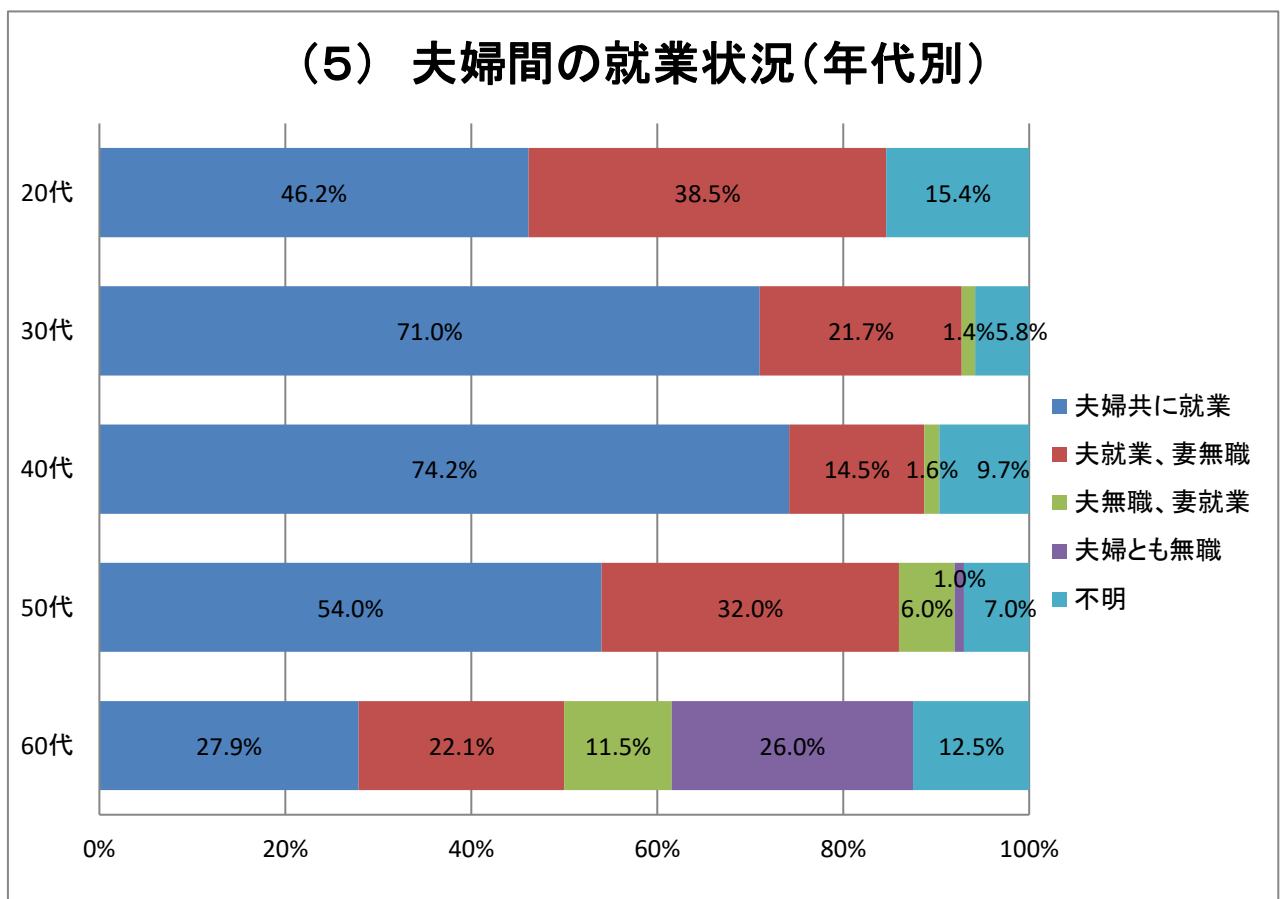
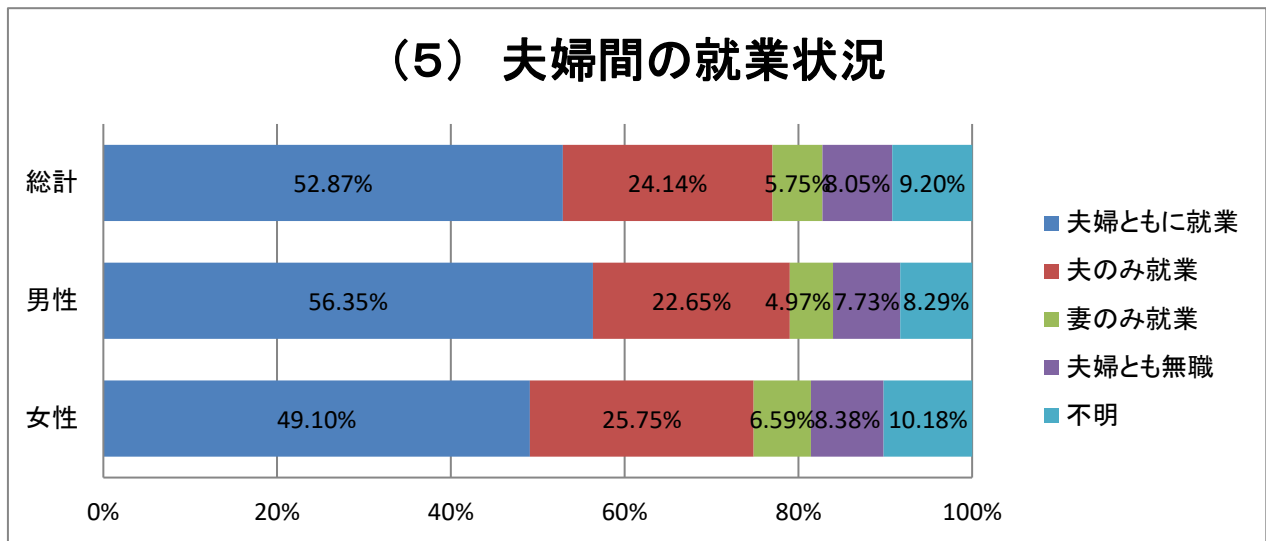
(3) 職業 (N=423)



(4) 配偶関係 (N=423)

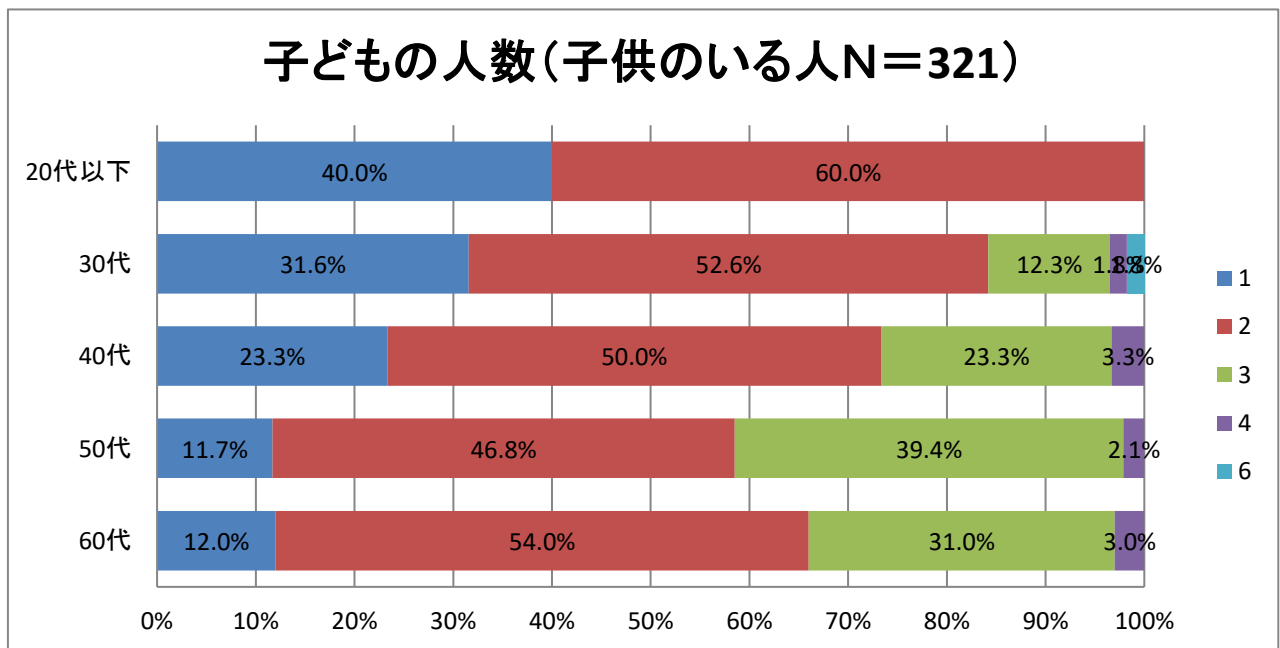
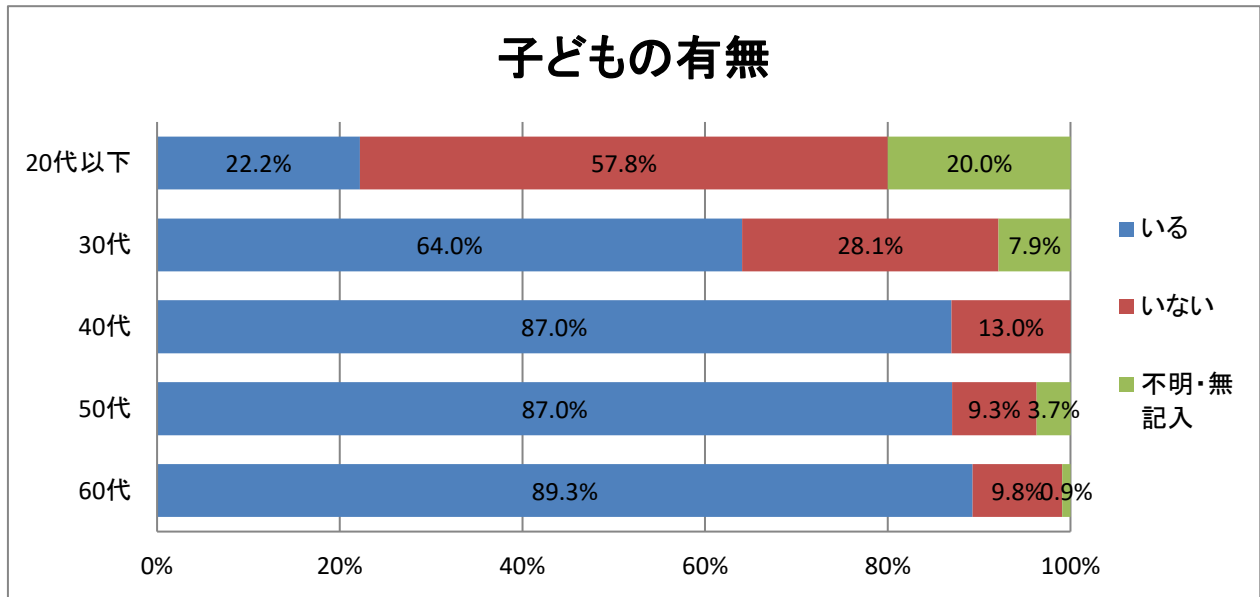


(5) 夫婦間の就業状況について (N=348 未婚者等を除く)

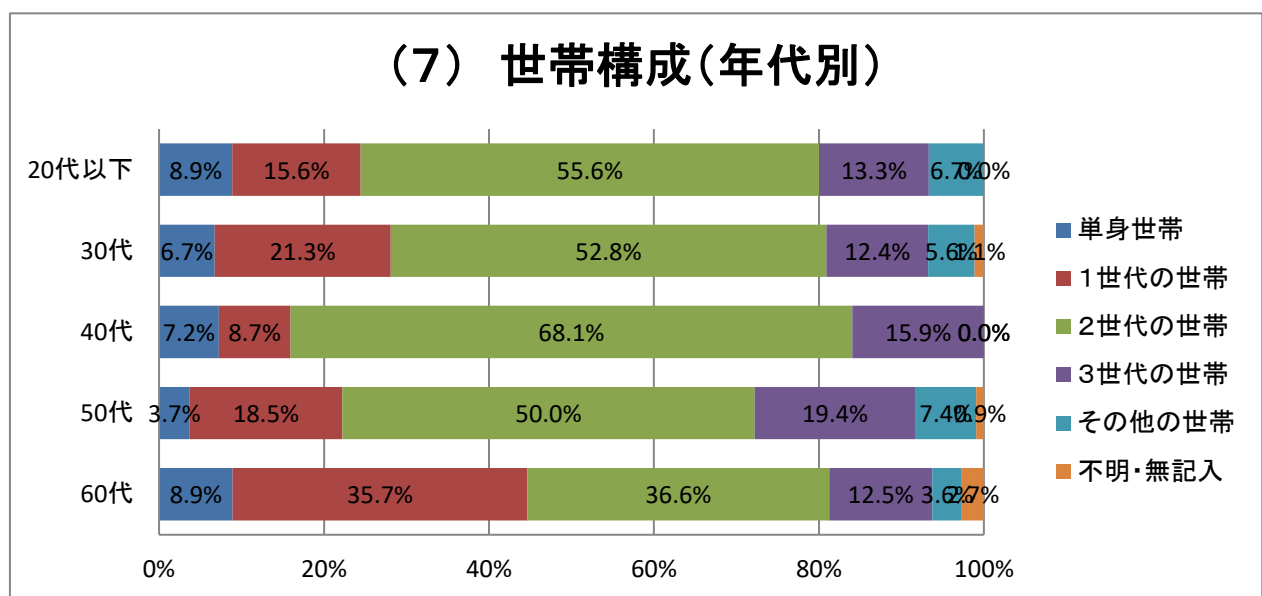
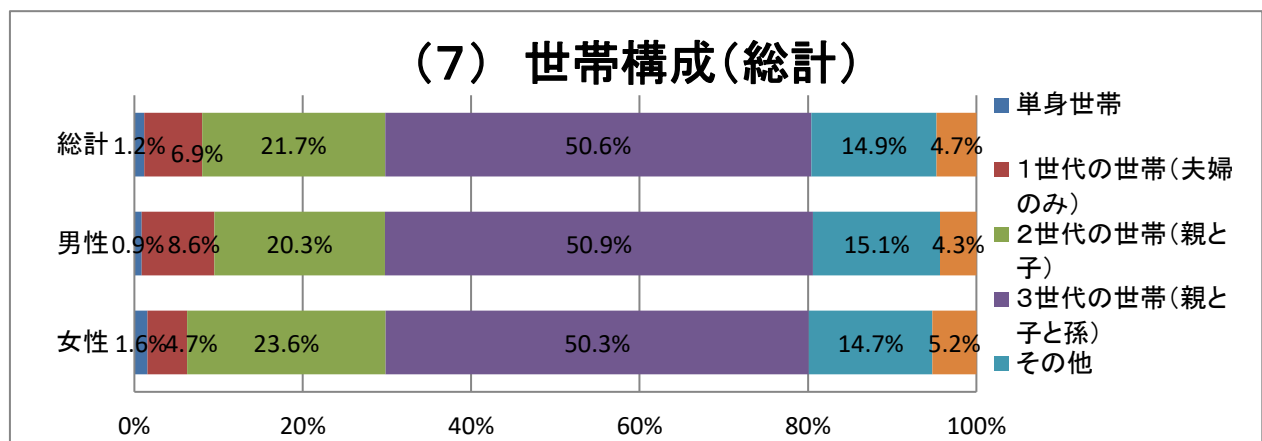




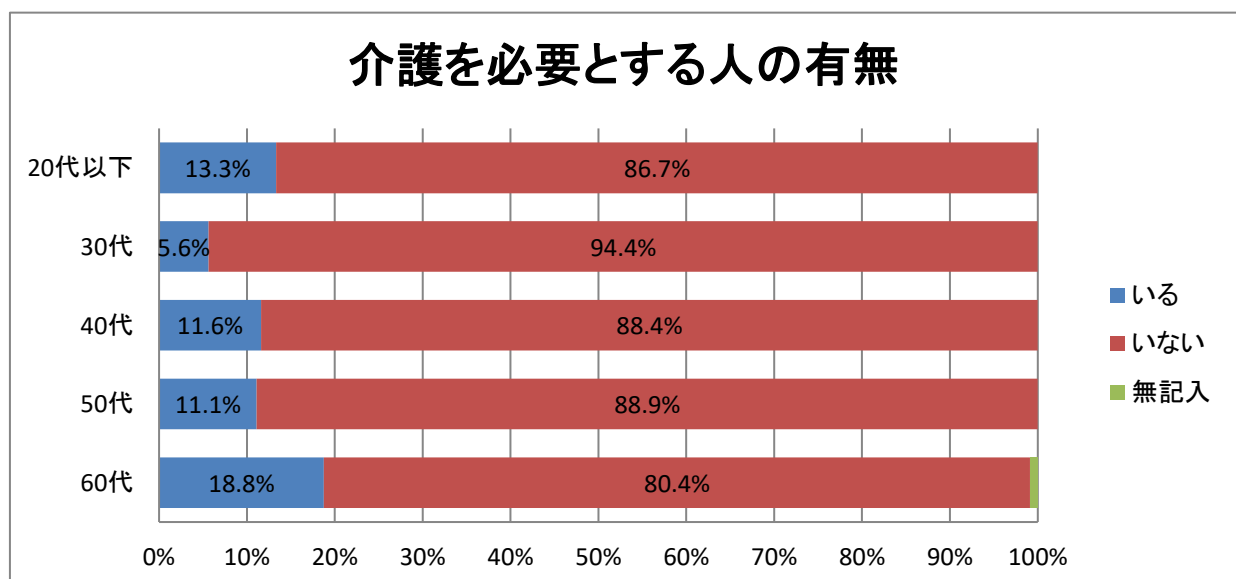
(6) 子どものいる世帯 (N=423)



(7) 世帯構成 (N=423)



(8) 介護を必要とする人の有無



## 2. 家庭生活について

### 問1 家事分担について

今調査では夫婦間の家事分担をより明らかにするため、既婚者（死別・離別含む）からの回答に限定した。

<前回調査との比較（全体での割合）>

- 夫婦で分担している割合が最も高かったもの  
平成27年：日常の買い物（26.1%）、平成22年：日常の買い物（20.3%）
- 夫婦で分担している割合が最も低かったもの  
平成27年：食事の支度（6.9%）、平成22年：食事の支度（7.8%）
- 前回調査（平成22年）より夫婦で分担している割合が増えたもの（6つ）  
→食事の支度（0.9ポイント）、食事の後片付け（3.5ポイント）、掃除（2.4ポイント）、日常の買い物（5.8ポイント）、育児（3.1ポイント）、介護（4.1ポイント）
- 前回調査（平成22年）より夫婦で分担している割合が減ったものはなかった。  
→洗濯は平成22年、27年ともに11.8%で横ばい。

<年代別比較・・・夫婦で分担する割合が高い順>

	20代	30代	40代	50代	60代
食事の支度	1	5	2	3	4
食事の後片付け	1	2	5	3	4
掃除	3	4	2	5	1
洗濯	1	2	5	4	3
買い物	1	4	5	3	2
育児	1	2	3	4	5
介護	5	4	3	2	1

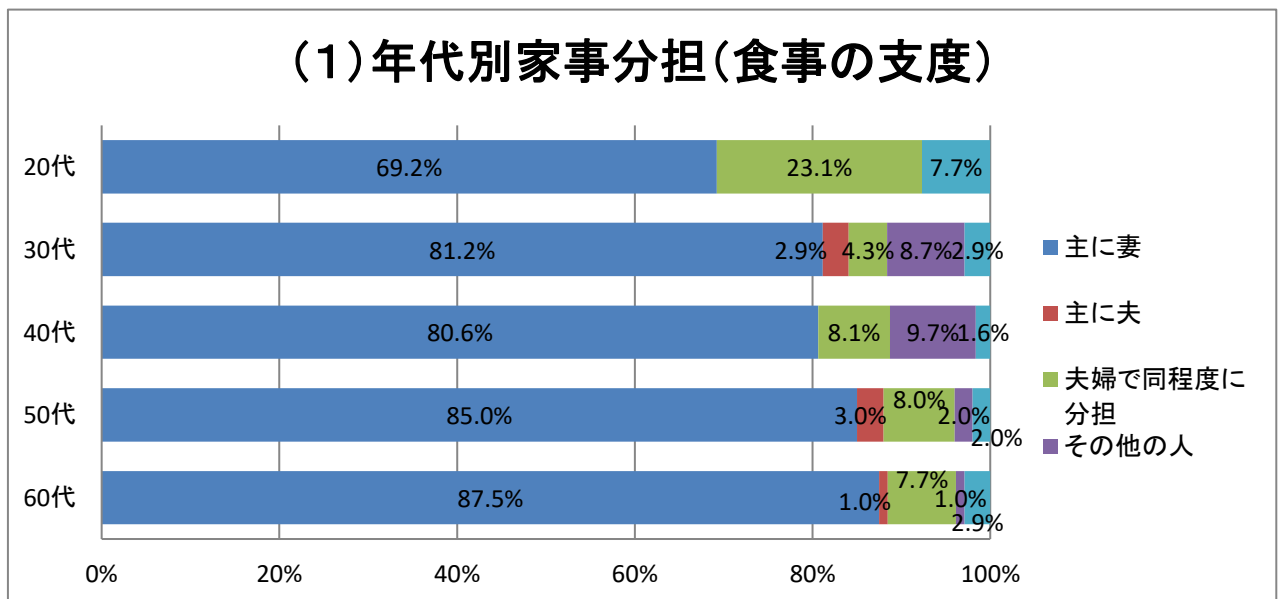
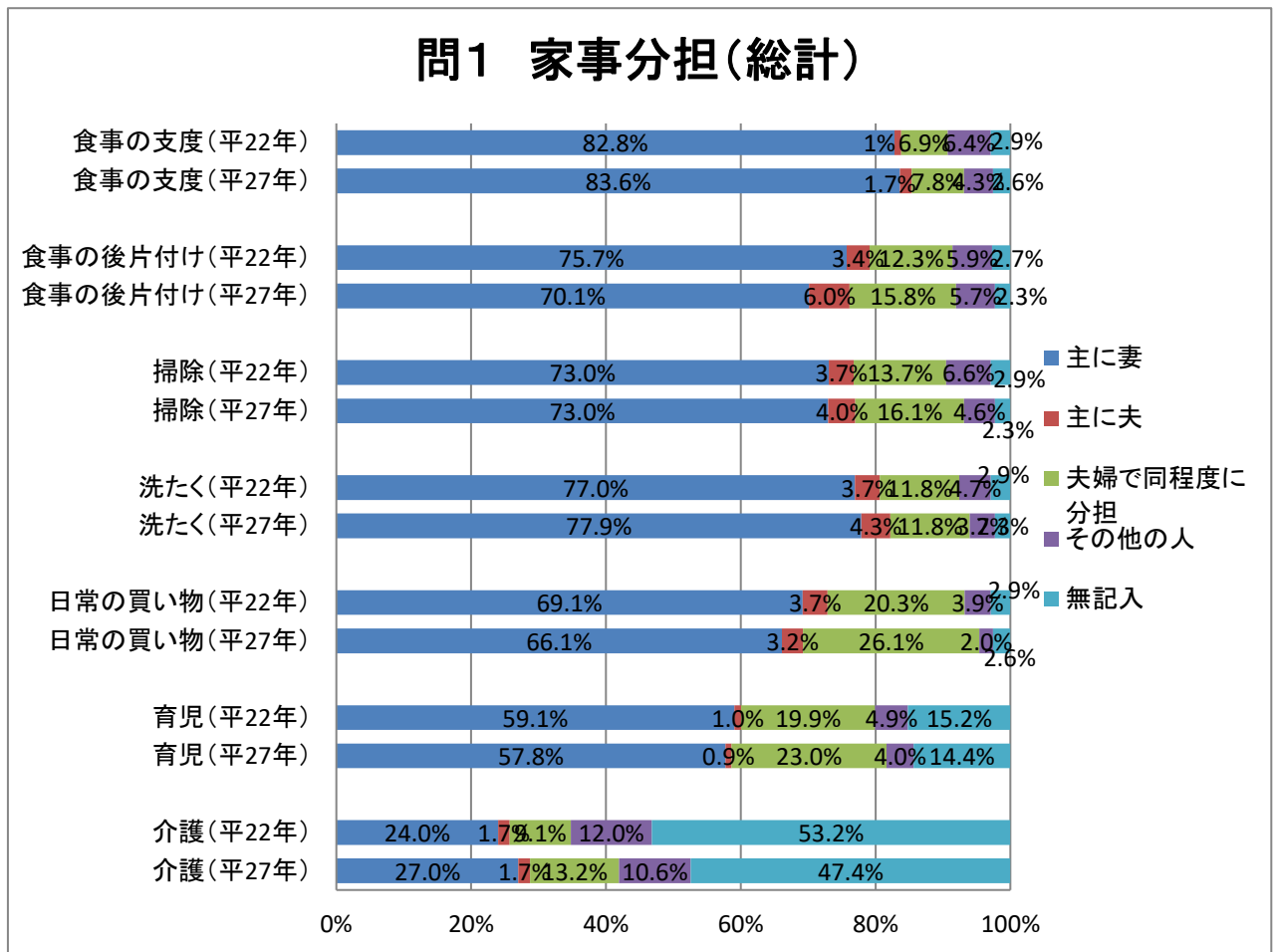
<夫婦の就業別比較・・・夫婦で分担する割合が高い順>

	夫婦ともに就業	夫就業、妻無職	夫無職、妻就業	夫婦とも無職
食事の支度	2	4	1	3
食事の後片付け	3	4	1	2
掃除	3	4	1	2
洗濯	2	3	1	4
買い物	4	3	2	1
育児	1	3	2	4
介護	2	3	4	1

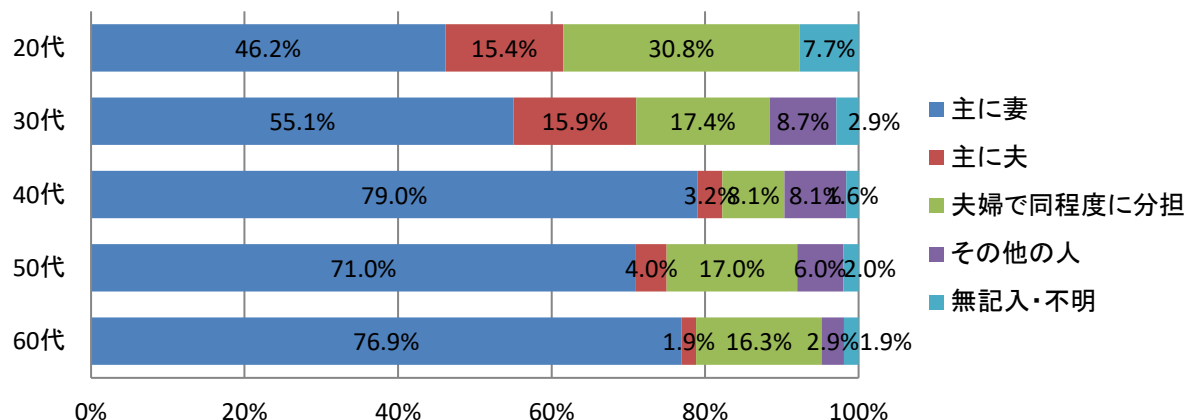
## 2. 家庭生活について

### 問1 家事分担について

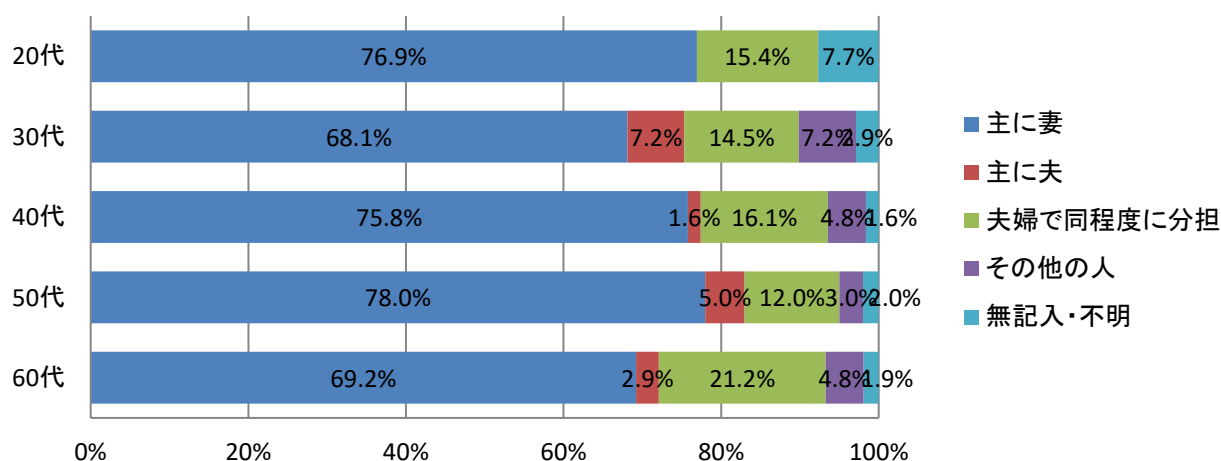
未婚の人数と、婚姻関係について未記入だった人数を除くため、N=348。



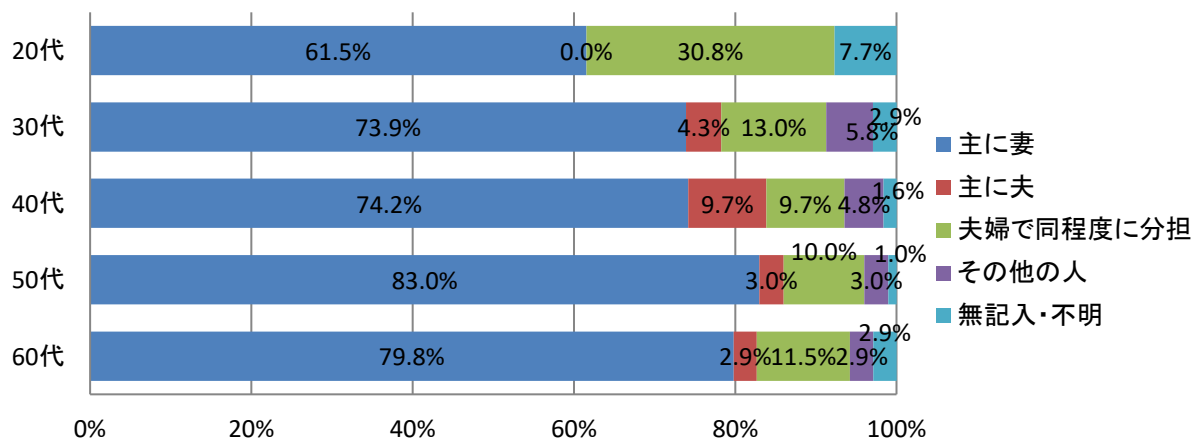
## (2) 年代別家事分担(食事の後片付け)



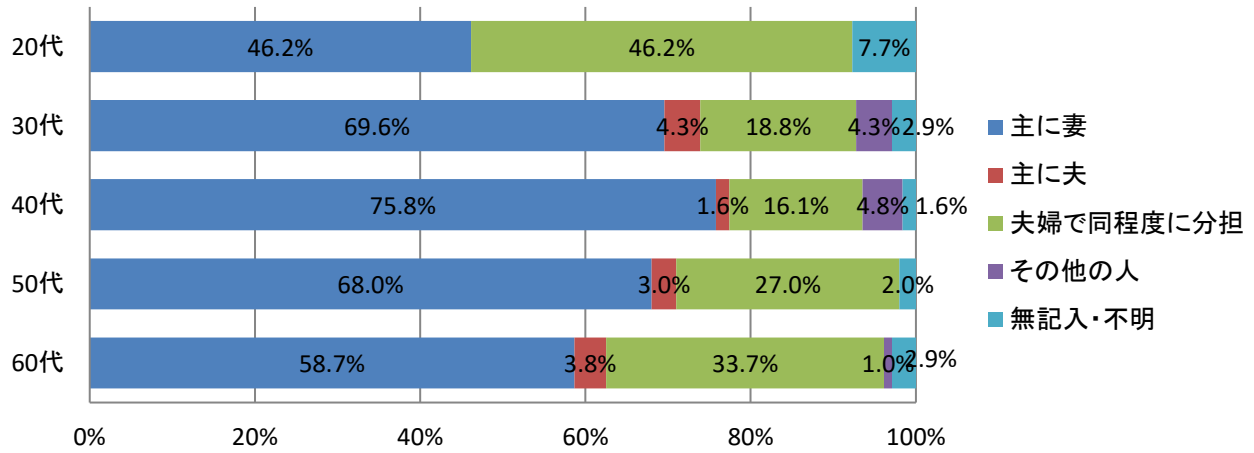
## (3) 年代別役割分担(掃除)



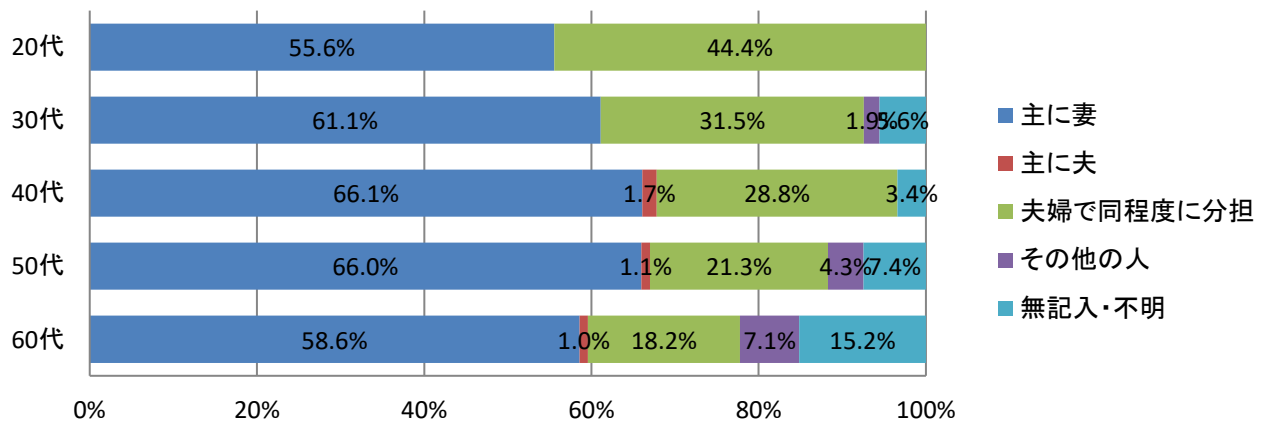
## (4) 年代別役割分担(洗濯)



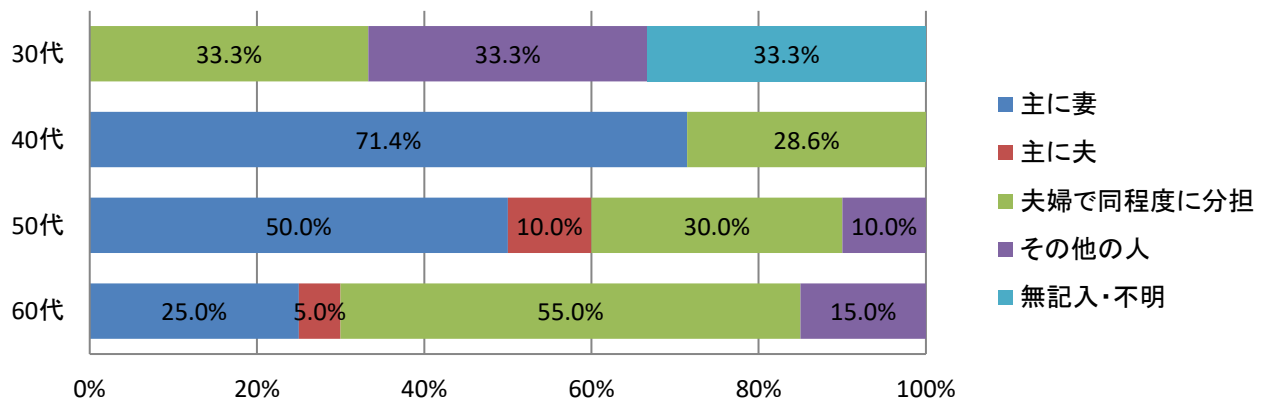
### (5) 年代別役割分担(日常の買い物)



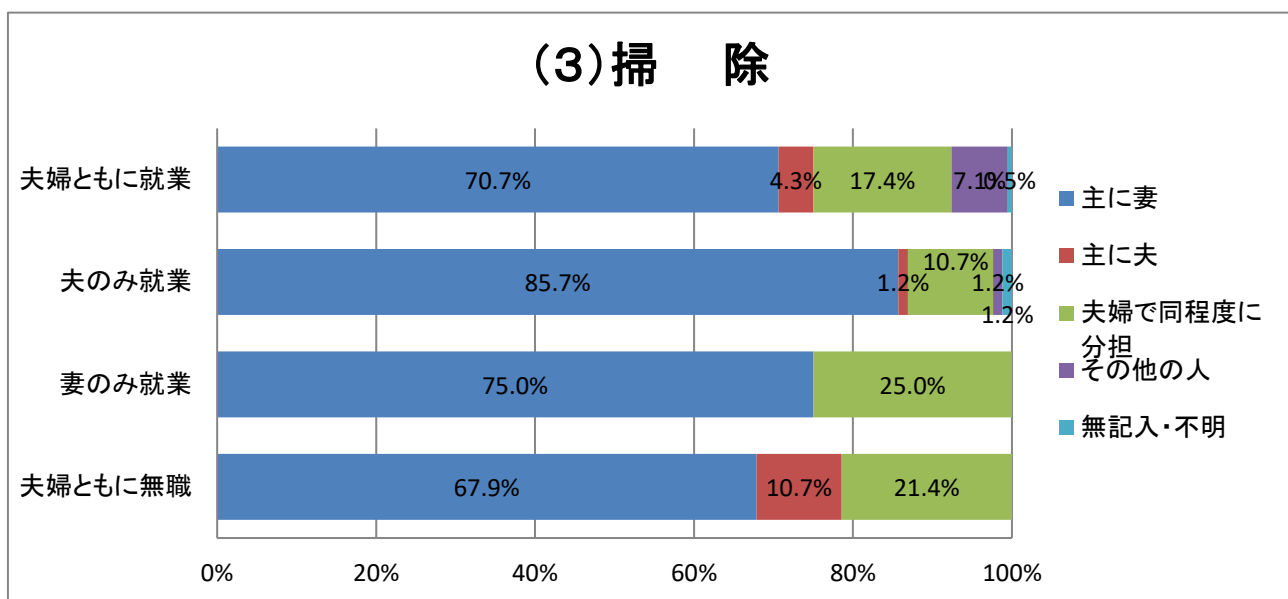
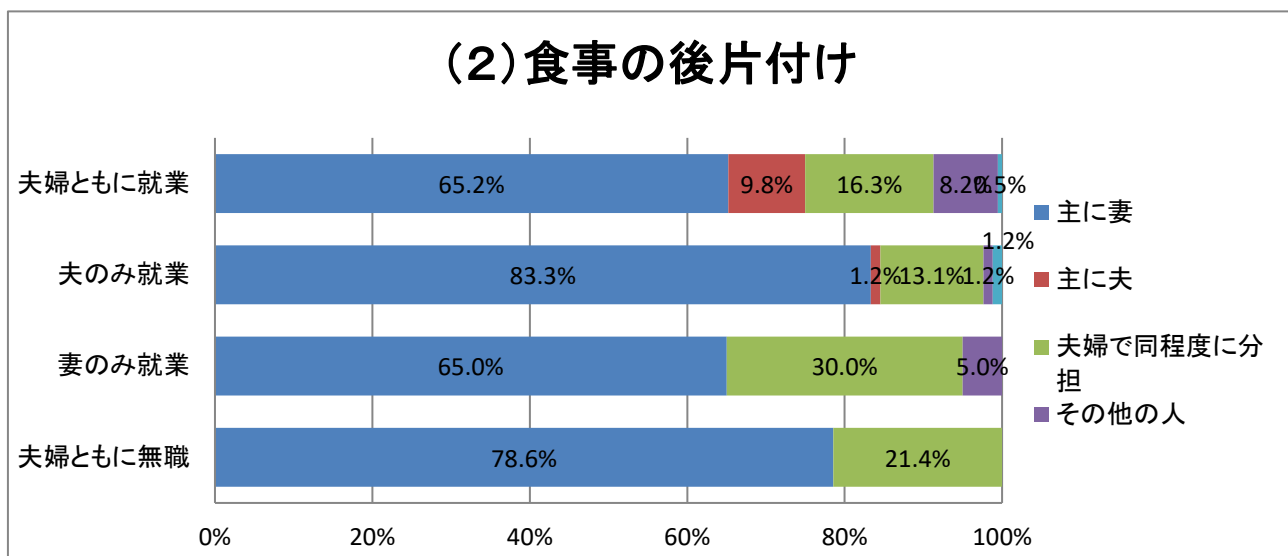
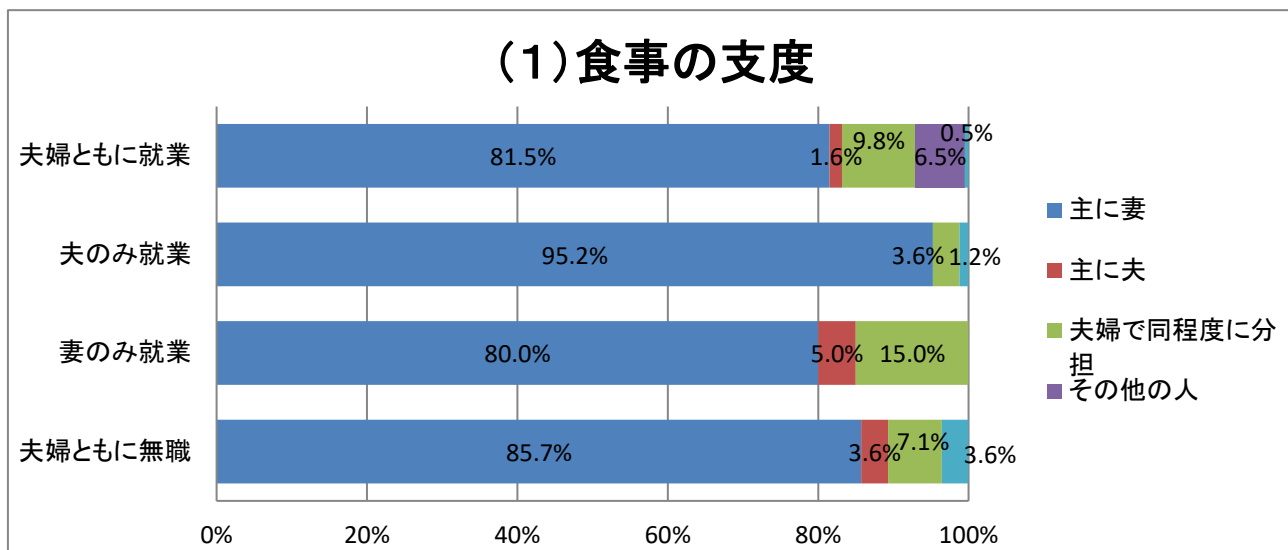
### (6) 年代別役割分担(育児) N=315 子供のいる家庭のみ



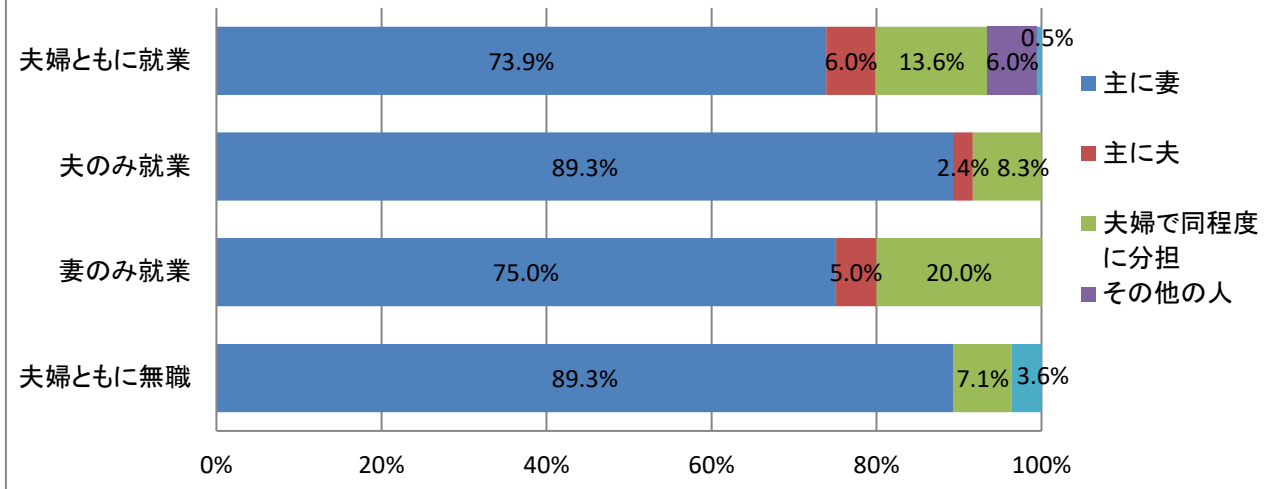
### (7) 年代別役割分担(介護) N=40 要介護者のいる家庭のみ



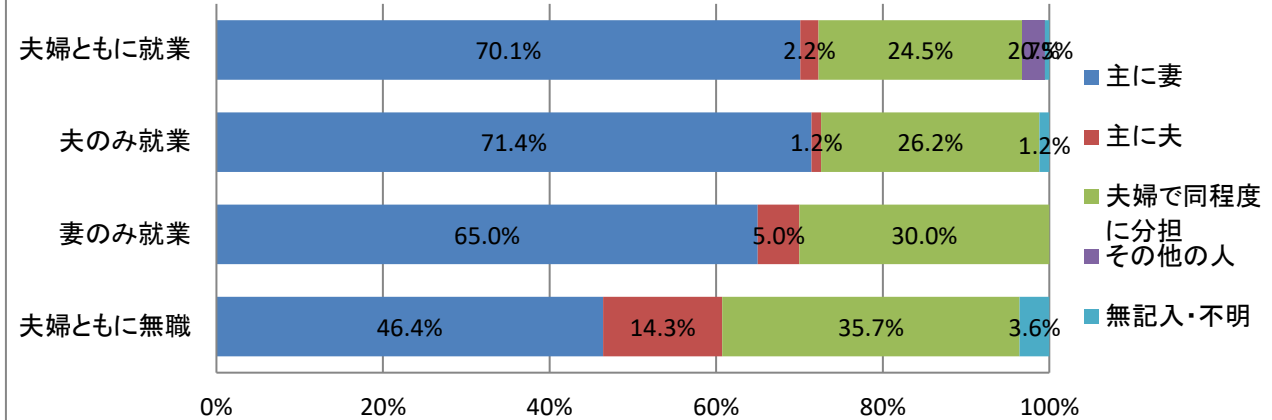
●夫婦間の就業状況の違いという視点で役割分担についてグラフ化しました。



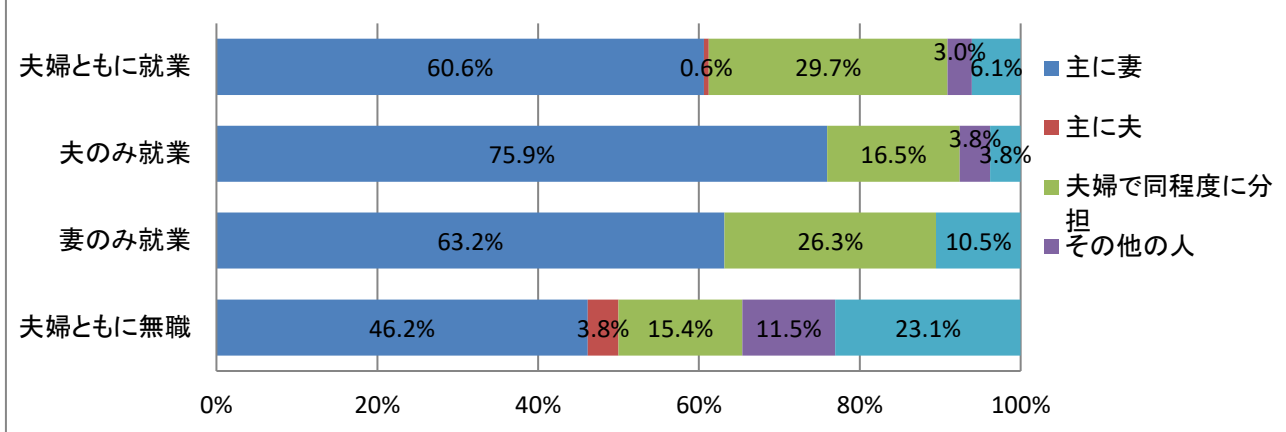
### (4) 洗濯



### (5) 日々の買い物

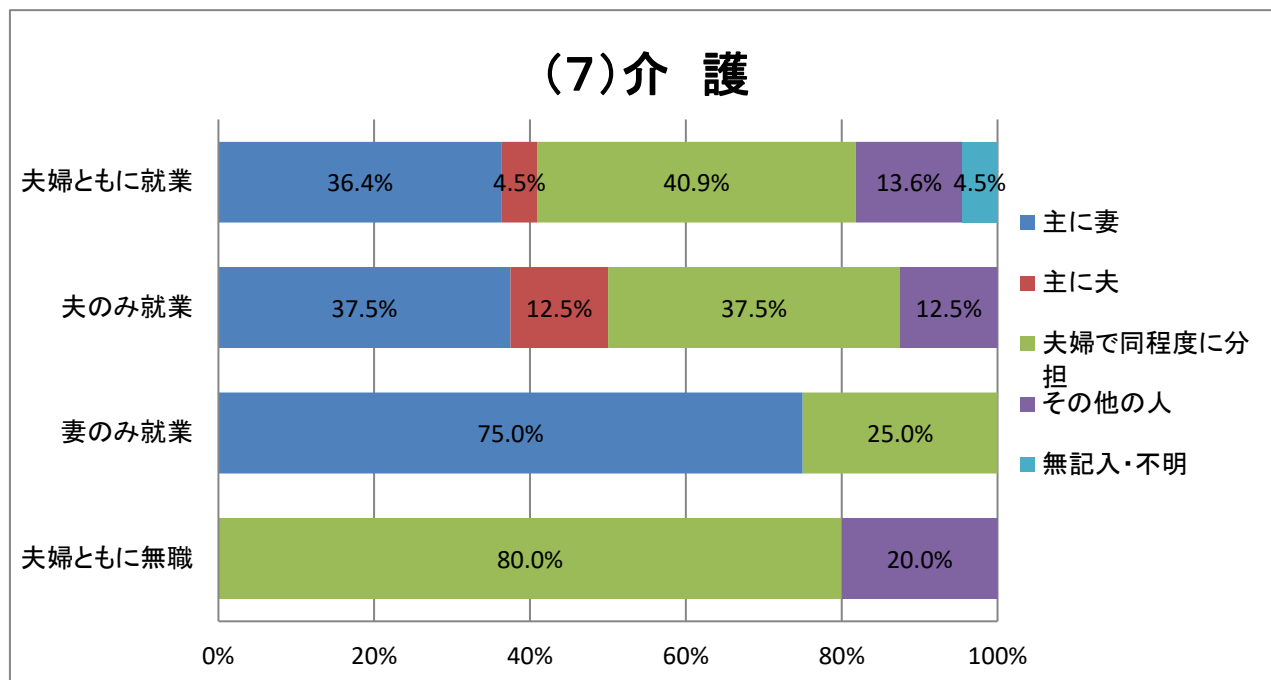


### (6) 育児



※ (6) N = 289 子供のいる家庭、夫婦間での就業状況で無記入を除く





※ (7) N=39 要介護者のいる家庭、夫婦間での就業状況で無記入を除く

### 3. 職業について

#### 問2 働く主な理由（上位3位）

総計：生計維持のため（39.3%）、住宅ローンなど借金返済のため（12.1%）、  
家計の足しにするため（9.2%）

男性：生計維持のため（43.1%）、住宅ローンなど借金返済のため（13.5%）、貯蓄（7.6%）

女性：生計維持のため（32.9%）、家計の足しにするため（15.0%）、  
住宅ローンなど借金返済のため（9.8%）

#### 問3 一度退職して、再就職していないまたはできない理由

- 男性：60代の回答が最も多く、理由は希望する就職先がないから、健康・体力面で不安があることを挙げている。
- 女性：30代、50代、60代の回答が多く、理由は家事育児の負担が大きいことが一番に挙げられ、他には、希望する職種がないから、健康・体力の面での不安が高い割合となっている。

#### 問4 女性が仕事を持つことについて

- 主に「結婚・出産後も辞めずに仕事を続ける方がよい」（就業継続）（45.6%）と「育児などが終わってから段落してから再就職する」（再就職）（37.8%）の2つに分かれる。
- 総計では、就業継続派が再就職派より7.8ポイント上回っており、男女別でも、ほぼ同程度の結果であった。
- 女性20代以下で、「子どもができるまでは仕事を続ける方がよい」の割合が多く、また、10～30代の若い世代で「結婚・出産後も辞めずに仕事を続ける方がよい」と答える割合が他の世代に比べて低かった。
- 男女共に再就職の支持は10～30代、就業継続の支持の年代は40～60代に結果が2つに分かれた。

#### 問5 社会の女性の働きやすさについて

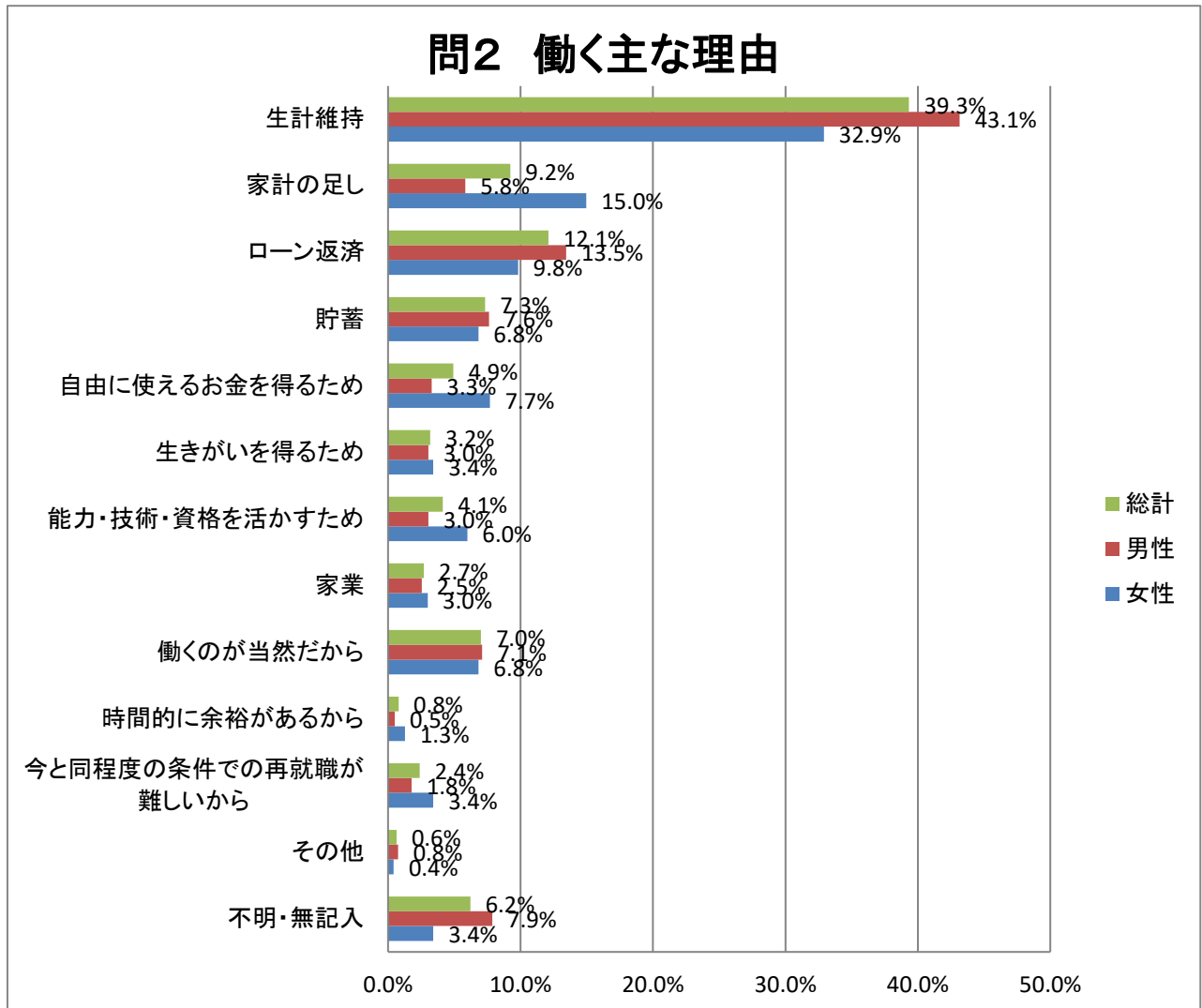
- 総計を見ると「とても働きやすい」（2.6%）、「ある程度働きやすい」（35.2%）を合わせた「働きやすい」派より「あまり働きやすいと思わない」（26.2%）、「働きやすいと思わない」（18.9%）を合わせた「働きにくい」派の方が多くなっている。
- 男女別では男性は「働きやすい」派と「働きにくい」派はほぼ同じ割合で、女性は「働きにくい」派が「働きやすい」派を16.7ポイント上回っており、男女の意識の差がある。

#### 問6・7 女性の管理職への登用について

- 7割の人が「適性のある女性はどんどん登用すべき」という意見であり、もっと女性の登用を進めるために必要なこと上位は「男性の意識改革」と「研修の機会の充実」であった。また、「女性の意識改革」も上位の割合を占めている。

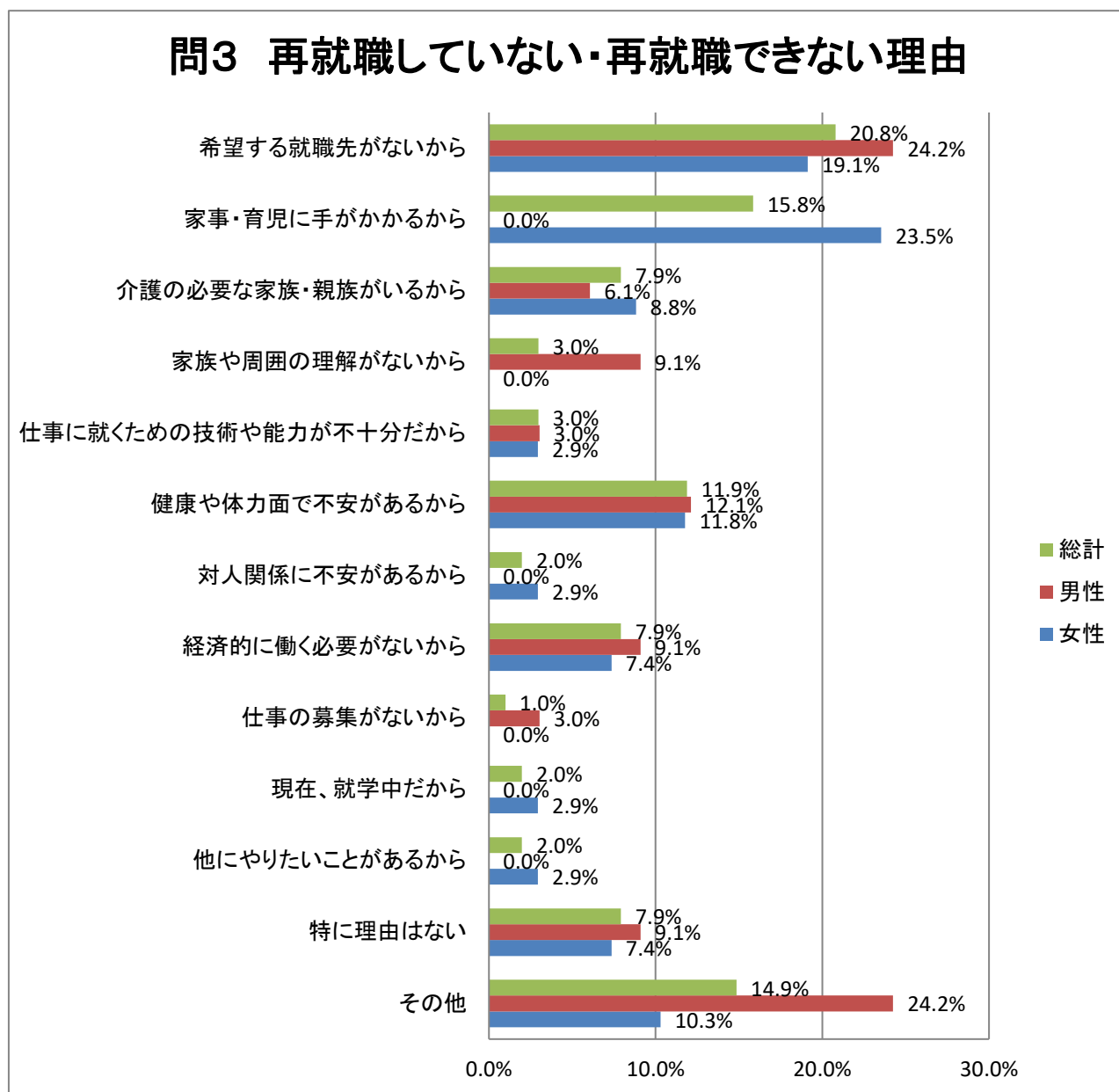
### 3. 職業について

問2 働く主な理由 職業欄回答者（1）～（4）の人対象（N=314）



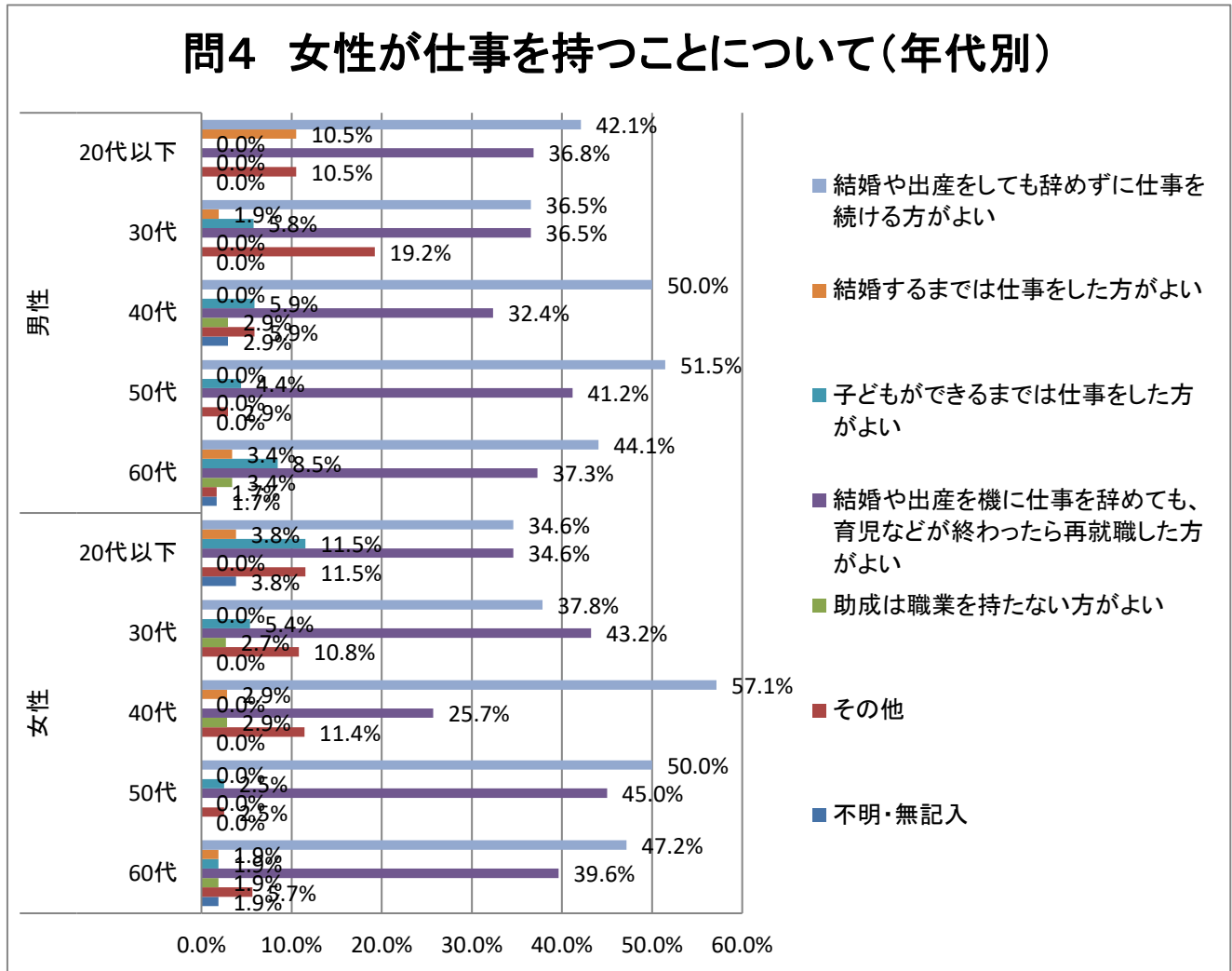
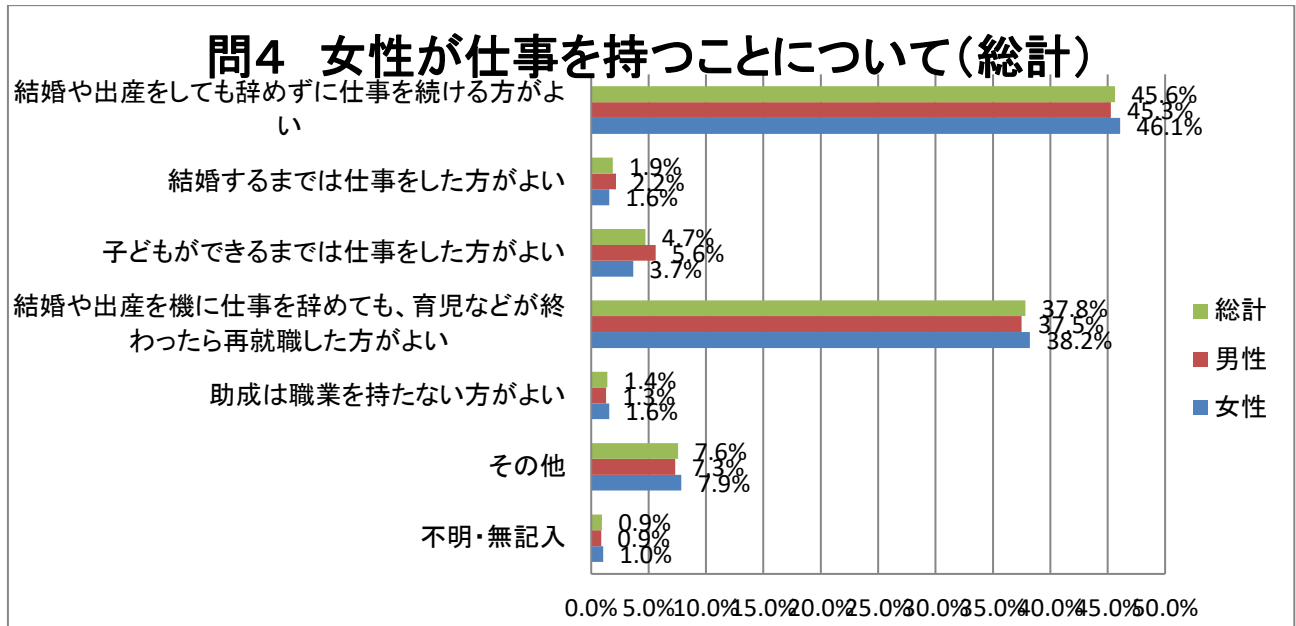
問3 現在就業していない理由

(対象：過去に就業経験があり、現在職業を持っていない人 N=101)



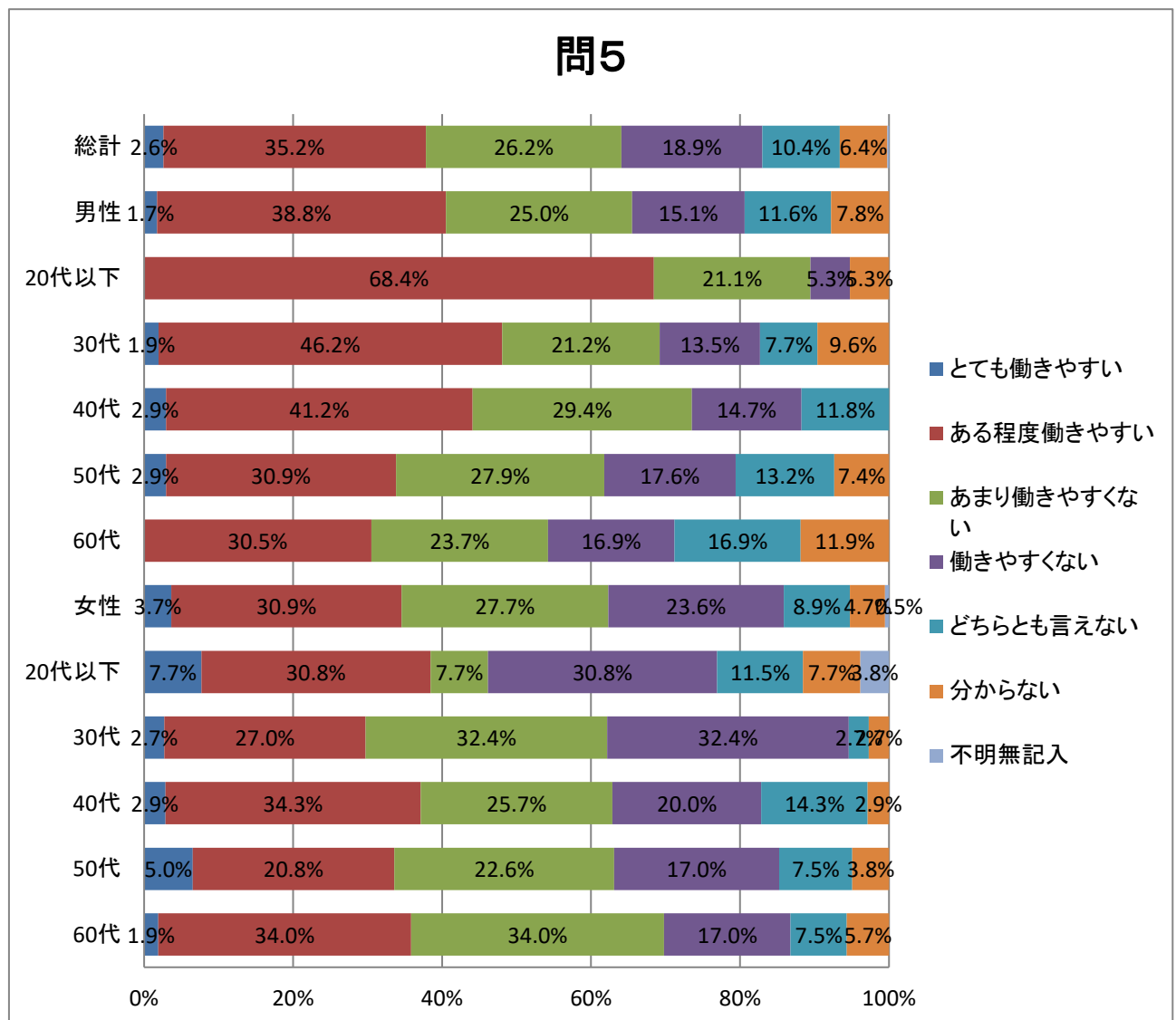
回答者内訳	女性	男性	総計
20代	7.9%	3.0%	10.9%
30代	10.9%	3.0%	13.9%
40代	5.9%	1.0%	6.9%
50代	11.9%	4.0%	15.8%
60代	30.7%	21.8%	52.5%
<b>総計</b>	<b>67.3%</b>	<b>32.7%</b>	<b>100.0%</b>

問4 女性が仕事を持つことについて

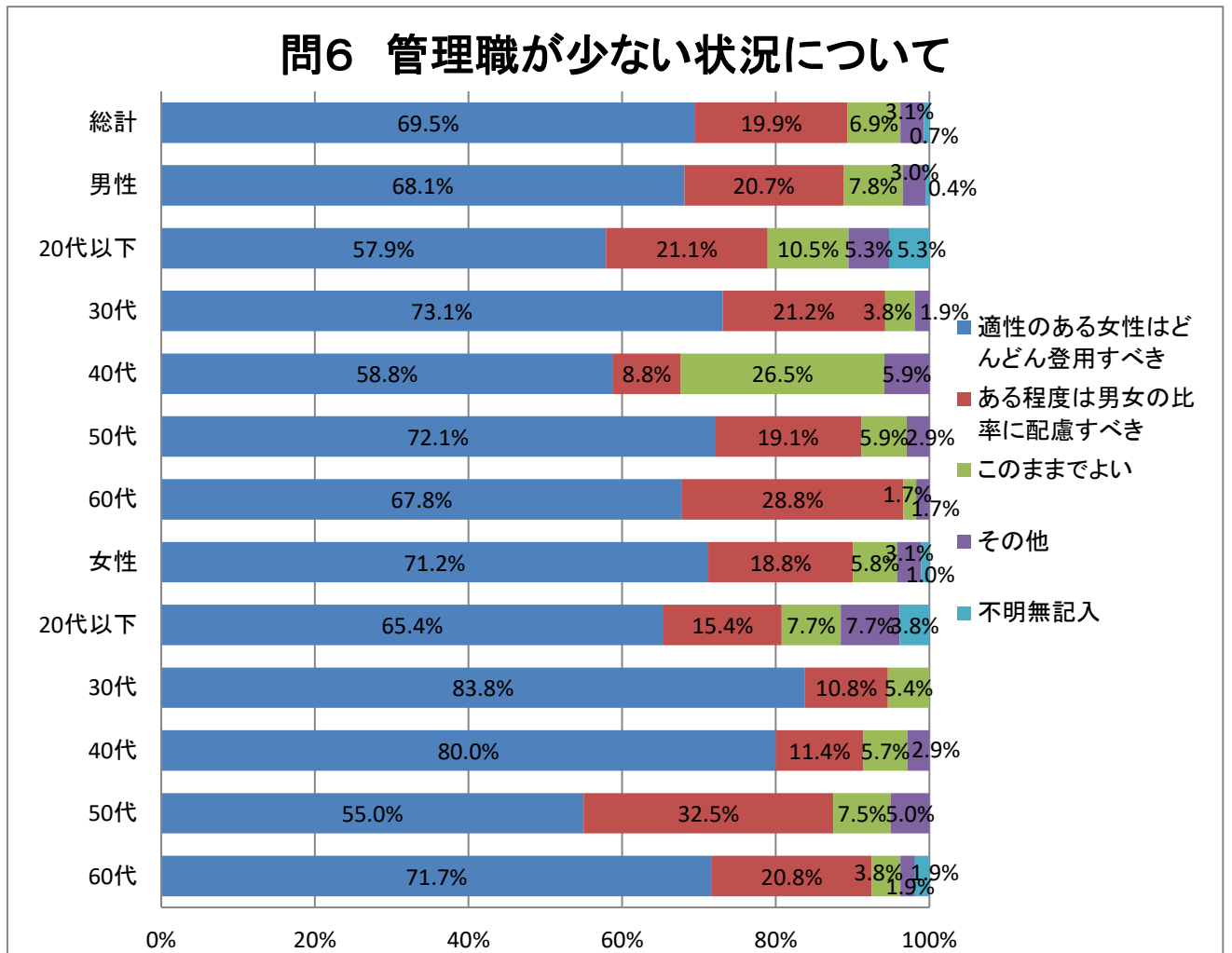


◎男女ともに、10～30代の若い世代で「結婚出産しても辞めずに仕事をつづけた方がいい」と考える割合が少なく、逆に40～60代からの支持が厚い。

問5 今の社会は女性が働きやすい状況か



問6 職場での管理職に女性が少ない状況について、あなたはどのように思いますか？



問7 管理職への女性の登用をもっと進めるには何が必要か

